

平成18年度 第2回 槻の木高等学校 学校協議会（協議内容報告）

1. 日 時 平成18年 12月2日（土）午後4時～午後6時

2. 場 所 槻の木高等学校 会議室

3. 参加者 委員名簿参照

4. 内容

1) 学校長挨拶

本日はお忙しい中ご出席いただきありがとうございます。

7月15日の第一回協議会より4ヶ月が経ちました。

ここで、前回ご欠席であった米津校長先生を紹介させていただきます。

前回から今回の協議会までには、夏休みの講習、関大での勉強合宿、後期10月からの家庭学習強化月間を行い、文化祭も成功を収めました。冬期講習も行う予定です。

また、本日は生徒2名が参加し、意見を聴く機会を作りました。

本校も設立4年目を迎えて、新たな課題も見えてきました。今日も様々なご提言をいただき、よりよい学校作りに活かしていきたいと考えています。

2) 本日の次第説明

本日の協議会の流れについて説明

3) 参加生徒紹介

【山本首席（学校運営室長）】

本日来てもらった2名の生徒は石原君、岡本さんで、勉強合宿に参加した生徒です。希望の進路にすでに合格しています。本日は、勉強合宿に参加してどうだったかについて話してもらおうと思います。

4) 生徒代表スピーチおよび補足説明

【石原くん】 3年、野球部キャプテン

いままで、3年間、部活動で勉強の習慣がついていなかったし、講習を利用したけど勉強の習慣化までには至りませんでした。勉強合宿には初めは半端な気持ちでしたが、周りのみんなの雰囲気や真剣さ、共に闘う仲間がおり、先生が近くにいる安心感が支えになり、勉強のやり方、習慣が身につきました。勉強に対しても苦しい気持ちがなくなりました。すばらしい場所で勉強できたこともありがたかったです。

【岡本さん】 3年、バスケットボール部キャプテン

部活動の引退後も勉強できず、焦っていました。勉強合宿に参加しても最初は集中力が続きませんでした。集中が切れたときに、周りの集中力に引っ張られて頑張れました。周囲の自然、空気もすばらしく、夕食には楽しく友達と話せました。帰ってきたときには明らかに心境に変化があり、勉強の習慣がつかしました。

【山本首席】 勉強合宿（3年生対象）のとりくみについて

基本テーマとしては「特訓」、「自学自習の習慣づけ・支援」。受験のためだけでなく、家で勉強できる習慣をこれからの為につけるために、ありとあらゆる時間を勉強にし、自習という形を前面に出しました。アクセントとして30分講習を開いたりしました。

最初は参加申し込み者が少なかったのですが、自分の合宿への思いを伝えるプリントを配布することで、同調して参加する生徒も出てきました。計30時間の自習時間を確保することで、やりきることの自信、周りも同じ環境の中で生きているという意識から、やる気をつけることが出来たと感じています。

勉強に疲れたら、廊下のチョコレートを食べるというアクセントをつけることも大きかったと思います。今年は34名の参加者でしたが、後輩に伝えてもらって、50名、100名となっていったらと思っています。

受験前のいいタイミングに開くことが出来たと考えています。

【長井教頭】

補足ですが、合宿に付き添った教員は2人、他にボランティアで多数の教員が教えに来てくれました。

5) 質疑応答 (☆委員の質問 ★生徒・教員の解答)

☆ 教室は34名全員入ったのか。また個々の生徒の教材はどうしたのか。

★ 100名くらいが入ることのできる部屋なので、個々の生徒に2席分を与えました。その部屋では一切の私語や寝ることを禁止し、もししゃべる、寝るなら部屋を出ることをきまりにしました。質問や講習は別の部屋で行ったので、自習室は非常にシーンとしました。

★ 教材は自分の進路目標となる学校に合わせた教材を各自持ってきていました。

☆ チョコレートがなくなることは。

★ なくなりそうでしたが、他の応援に駆けつけてくれた先生方が持ってきてくれました。

☆ 部活動のときは勉強ができなかったと言っていたが、自宅ではできなかったか。

★ 定期テストの1週間前だけ勉強していました。

☆ 3日間の勉強合宿で、槻の木高校に対するイメージが変わったことがあれば教えてほしい。

★ 付きっきりでいてくれた2人の先生が家族のように感じました。他の先生が差し入れを持ってくれたりしたことで、槻の木の先生はすごいなーと思いました。

☆ 授業中の勉強はしっかりしていましたか。

★ とにかく寝ないこと。これだけを心がけていました。

☆ 受験を迎えるまで勉強する習慣、スタイルができなかったというが、部活動をするとなさなるのか。今回は34名であり、50名、100名に増えればということだが、34名だったから良かったのでは。

★ 部活動をしている人全員が家庭学習習慣がないわけではなく、自分の場合は習慣がなかっただけだと思います。また、合宿については、付き切りの先生が増えれば50名、100名でも可能だと思う。

★ 50名、100名となっても、一部屋の人数は30名くらいが良いと感じた。

☆ どういう人が参加したのか。例えば、周りで声を掛け合って、友達同士で参加したのか。

★ 周りの友達に行こうと声をかけて行くことはありませんでした。これから勉強を本気でやるという覚悟を持って参加するので、自らの意思で選んでくるものだと思います。

☆ 体育大会を見せてもらって、本日2人の話を聴いて、本当に槻の木は良い学校だと感じる。

6) 家庭学習強化月間の取組について

【吉田先生 (学年室長)】

先日、家庭学習強化月間の途中経過をコピーして送らせてもらいました。時期については、行事、試験のない月、前期の結果の出た10月の4週間行いました。

生徒により勉強時間数はさまざまだが、0時間と自分で書くと危機感を持つようです。全体の平均勉強時間は1時間20分でした。

合宿と同じように、勉強の習慣をつけることができたのかもしれませんが。

先ほどの2名の生徒からも勉強と部活動の両立が難しいことが分かったが、日頃の学習

を振り返る機会として、1時間20分という数値は評価できる時間だと考えています。

今後、より効果のあるものにするために、家庭学習強化月間について検討していきたいと思えます。

【長井教頭】

個々の教員が今までに家庭学習の時間数を書き記すことを生徒にさせることはありましたが、今回は学校として行いました。

また、学校教育自己診断票というものを利用して、自分の振り返り、先生の評価、学校の評価などの項目について、マーク形式でアンケートを行う予定です。同時に授業アンケートについても行う予定です。こんな設問は知らない等、ご意見を伺いたいと存じます。

このアンケートについては、12月中にマークしてもらい、12月、1月でまとめて、次回の協議会で結果を説明いたします。

先日、教育 PRO という雑誌に榎の木高校が掲載されましたが、この4年間の取り組みについて、本にするという提案がありました。これから本にしようとしていますが、載せるならこの点を載せるべきという意見があれば是非お教えください。

以上の点について、忌憚のないご意見をお願いします。

7) 各委員よりの提言

【吹田さん】

先日、榎の木高校は倍率も高いが、駄目元でもいいから榎の木高校を受けさせたいと考えている保護者と話す機会があった。府立高校では2極化が進んでいるというが、榎の木高校では是非、子供たちとのコミュニケーションづくりにも重点をいれて学校づくりをしてほしい。

また、ある保護者と話した時に出てきたが、高校を中学校の次のステップとしてとらえるだけではなく、全体的な進路の目標として、小学校への学校説明会をしてみてもいいという話があった。公立高校への安心感を与えるという意味でも、榎の木高校の小学校への学校説明会をする機会を作してほしい。

【加治佐さん】

勉強合宿については、勉強をやらされるのではなく、生徒自身が規律の厳しい中で生活しようとするのは非常にいい機会であり、流されてやるものではなく自立を促すいい機会だと考える。

しかし、7割の生徒が部活動に入部するなら、日常生活の中では勉強する機会がないのではと思う。家庭学習強化月間中の勉強時間については、何時間の勉強を期待しているかが気になる。榎の木には1時間くらいの勉強は当たり前という考えをもってほしい。進学校としての勉強なのか、部活動なのか、それとも両立なのか、で言うと、もし榎の木高

校が両立ならば、2 兎を追っているように見える。

学校教育自己診断アンケートについては良いと思う。槻の木高校の4つの柱については良くわかるが、PDCA のしくみの中で、重点化するものを決めて、今年は4つの内の1つと決めて、見直しをする機会が必要。アンケートではそこを重点的に質問するという様式にしたらどうか。

【壺谷さん】

合宿は大成功に終わったのではないかと思う。整った環境のなかで、同じ境遇に立っている生徒たちが、近くにいる先生と共に勉強できたのが感想文から非常に良く分かる。

また、この地域のまわりから槻の木高校の欠点が聞こえてこない。これは非常に良いと考える。これからも保護者との連携を深めていってほしい。

【米津さん】

最近、愛校心というものが薄くなってきているが、槻の木高校では先生達への信頼、先生達が頑張ってくれているという思いが生徒を導いているように見える。本をもし作るなら、そのような先生達の裏の動きを本に載せるべきだと思う。

学校の進路指導の必要性がなくなってきた、塾にウエイトがかかってきている。京大セミナーはどこの学校に行くべきかを言わず、自分で学校を選ばせる自主性を重んじている。このように、槻の木高校も進学校を目指しているが、成績だけで他校と勝負するのではなく、他の面での槻の木も見せてほしい。と期待している。

【田鎖さん】

槻の木高校の様々な取り組みに感服している。自学自習の枠を作ってあげるということが見て取れる。まだまだ生徒との信頼をどうやって築くのか、暗中模索状態に思えるが、この土台をしっかりと作って、次に何をするのかを考えてほしい。

合宿の取り組みは非常に良いので、2年の意識の高い子供たちも参加させる等することで、スタイル、時期を確立していったら良いと思う。

進路指導の究極は、自分で自分のことを決められること。槻の木もそのようなことを、よりきめ細かく指導してもらえたらと感じる。

【芝井さん】

山本先生の3年生へのメッセージ文は非常に趣旨が分かって良いと思う。教員からのメッセージを出すことはすばらしい。

学校教育自己診断というのは色々な意味で難しいので、とりあえずやってみて、少しずつ良くしていけばよいと思う。

学校の柱となる目標は、生徒の状況に合ったものであるべきなので、先生のみで決めることではない。それぞれの生徒がどう考えているのか、自分の立っている位置をみること

から始めればよいと思う。

家庭学習については、生徒がポートフォリオという形で自己管理していく（情報の収集、整理）ことができれば、より自己確認・形成を進めることが出来る。個人に返すことで後で見直す機会をつくったらよいと思う。

8) 質疑応答 (☆委員 ★学校)

★ 設立4年経ったが、4つの柱の中の規範意識についても、少し甘い部分が出てきたのではないかと感じることがあります。

12月、1月の毎週土曜日に11:00～12:00まで学校説明会を行う予定です。またHPにも載せる予定です。

部活動との両立は本当に難しいと思いますが、本校の生徒にはそれを乗り切る指導をしていき、自立の力を身に付けさせたいものです。そして本校がいかに子供たちの成長を願っているのかを伝えていきたいと思っています。

今後も子供達を軸として、子供達の可能性を引き出すために、子供達と対話をしながら学校の目標を作り、運営していきたいと考えています。

★ 生徒に勉強をさせる方法等を、両首席と共に頑張っていますが、今後は内規を整理し、本年度中に完成させたいと考えています。またデータをツリー形式に整理することで、各分掌の職務を分かりやすくすることを実施しました。

★ チャイムを校歌にしましたが。開始当時は反対がありましたが、実施して、今は良かったと思っています。

☆ 関西大学では電話の待ち受け音楽を校歌にしている。卒業生の中にはそれを感動する生徒もいた。

☆ 今の教育現場は非常に厳しいことを世間的に言われているが、言葉にも気を使うか。

★ 信頼関係があるのかないのが、重要だと感じています。教員の見極める力も大切だと思います。

☆ 子供によってはそれが先生嫌い、学校嫌いにもつながるのでやはり見極める力が重要だと思う。

☆ 槻の木は校長、教頭が低姿勢であるのがすごく地域にとって素晴らしい。この高槻の

中で非常に良い学校だと感じるので、これからも期待している。他の公立の教員も頑張っ
てほしい。

PTA に講演する場を設定するので、吉田先生には是非講演に来てほしい。

9) まとめにかえて

【松本校長】

本当に長時間ありがとうございました。第3回には、アンケートの結果を提示させてい
ただきます。

学校運営については、初心に戻って子供たちの成長を見続けたいと考えております。